

アドバンス臨床実習

ナンバリング

M6-S1-H05

責任者・コーディネーター	実践教育部門長		
担当講座・学科(分野)	アドバンス臨床実習担当科		
担当教員	アドバンス臨床実習担当教員		
対象学年	5、6学年	期 間	5年 2025年7月 7日(月)～ 2026年3月 27日(金) 6年 2026年3月 30日(月)～ 2026年6月 19日(金)
区 分	実習	時間数	500コマ 1,000時間(5学年) 240コマ 480時間(6学年)

■ 学習方針

本学学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)にも明記されているように、医師は、人間性豊で暖かさがあり、人間の生命に対して深い畏敬の念を持ち、患者さんや家族と対話を行い、その心理を理解し、患者さんの立場に立って診療にあたらねばならない。このことを念頭に高次臨床実習では、臨床現場にて医学知識・技能を身につける。

■ 教育成果(アウトカム)・到達目標(SBO)

1. 外来や病棟において、学生は Student Doctor として医療チームの一員となり、医療に携わる形の実習(いわゆるクリニカル・クラークシップ)を行う。これを通じて医療人としての責任を自覚できるようになる。
2. 医行為を通じて、患者さんや家族との対話あるいは医療チーム内での責任ある行動をとることで、患者・家族や他職種からの質問や助言に真摯に耳を傾けることができる姿勢を身につけることができる。
3. 指導医の指導のもとに侵襲性の高くない医行為を実施することで、初期臨床研修医あるいは研究医としての業務を行うために必要な臨床医学の技能・態度を修得する。
4. これまでに修得した知識を応用して、一般的な疾患の診断に必要な検査、鑑別診断、治療といった一連の思考過程を繰り返すことにより、初期臨床研修医あるいは研究医としての業務を行うために必要な論理的思考力を身につける。
5. 実習で担当した患者さんの社会的背景や将来像を考えることで、社会正義と患者の福祉優先原則のもとに行動する倫理的態度を自分のものとするとともに、地域医療にあたる将来像を描くことができる。
6. 医療安全・感染対策に必要な過程を学ぶことにより、安全な医療を提供できる知識・技能・態度を身につける。
7. 最新医学を駆使して患者さんに向き合う指導医に接することで、医療・医学の進歩に遅れることなく不断に学問を継続して最新かつ最善の知識と技能を修得し、後進の育成にあたる将来像を描くことができる。
8. 地域医療現場においても医学知識の収集と情報発信に英語能力が不可欠である状況を実体験することで、国際性を持った医療人への将来像を描くことができる。
9. 病態生理をもとに疾病を論理的に考える行為を通じて、本質的な病態解明を志す研究医としての将来像を描くことができる。

(ディプロマ・ポリシー:1、2、3、4、5、6、7、8)

■ 成績評価方法

臨床実習後 OSCE による。

(判定)

各試験項目(ステーション)の点数を合計し、これを 100 点満点に換算して評価を行う。

(合否基準)

合格:60 点以上の場合

不合格:上記以外の場合

評価が合格点に満たない者には再試験を行い、60 点以上を合格とする。

病気又はやむを得ない事由で受験が不可能の場合には、所定の手続きの後、追試験を行いその評点より1割を減じたものをもって得点とする。

■ 特記事項・その他

各科の実習の内容は別に示す。

シラバスに記載されている各実習内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修(予習・復習)を行い、医療面接・診察など基本的臨床技能実習で修得した手技について再確認をすること。また、実習前に e ポートフォリオ(WebClass)「日々の振り返り 今日の目標」にて、事前学修内容を踏まえた自己到達目標を設定し実習へ臨むこと。各実習に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全実習に対して該当するものとする。なお、適宜 e ポートフォリオ(WebClass)を通し個人に対する実習のフィードバックを行う。実習では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う